自己表現力を育てる授業のあり方

—環境問題（家庭科）への取り組みから—

The Ideal Method of Classes to Improve the Ability of Self－expression.
—Tackling the environmental problems in home economics.—

川　口　恭　子（和歌山市立楠見小学校）

〔抄録〕

『自己表現力』は，自分の考えや判断に基づいて，自分らしく表現していく力であり，自己表現しながら自己実現が図られていく。人間形成に大きくかかわる『自己表現力』を学力として重視した授業設計を考えねばならない。

『自己表現力』として育てたい具体的な力や態度は，次の3点である。

◇その場に応じた適切な方法や的確な内容で，相手にわかるように伝達する力

◇自分のよさや可能性を生かしながらその子らしく個性的に表現する

◇自ら進んで，コミュニケーションを楽しもうとする態度

このような力や態度を育てるには，

・子ども一人ひとりのものの見方，考え方，感じ方などを大事にする
・個々の子どもの違いやその子らしさ（個人差，個性）が発揮できる環境づくり
・子どもが自らの理解を深めながら，自分のよさを伸ばしていくことを助ける支援

を基本的な姿勢とした，授業の見直しや改革を試みていかねばならない。

学習の活動や範囲，領域などの弾力化，あるいは「判断，思考，表現，選択，意欲」そのものが目標とされる学習活動の設定などが必要になろう。

以上の考えに立って，どのように授業を設計し，単元設定をしていくかについて，実践例を通して，具体化したものである。

〔キーワード〕
自己表現力　自己評価　環境問題
その子らしさが生きる単元設定　多様化・弾力化

Ⅰ『自己表現力』と子ども

『自己表現力』は，自分の考えや判断に基づいて，自分らしく表現していく力である。

人は，自分のおもい（意識，感性）や考えを自分らしく表現することで，さらに，それらを深めたり，豊かにしたりして，自分らしく自己を実現していく。

ところで，“自己を表現する”には，置かれた環境，能力，意欲，まわりの評価など総合的な

力や判断が必要である。自分をどこまで出すか，どの方法で表現するかは，人によってもその時，その場所によっても，多様であり，変化する。その上，他人の目を意識したり，他との違いを恐れ，まわりを見て個性を出さない生き方を善しとしている社会にあって，ありのままの自分を自分らしく表現することは，子どもによっては大変難しい。

現在の子どもの生活が，心身ともにゆとりがなく，創意工夫して生きる場が少ないことも，自分らしい表現が育ちにくい要因であることを考えると，人間形成に大きくかかわる『自己表現力』を重視した授業設計を考えねばならない。

『自己表現力』として育てたい具体的な力や態度は，次の３点である。

◇その場に応じた適切な方法や的確な内容で，相手にわかるように伝達する力
◇自分のよさや可能性を生かしながらその子らしく個性的に表現する
◇自ら進んで，コミュニケーションを楽しもうとする態度

このような力や態度を育てるには，

- 子ども一人ひとりのものの見方，考え方，感じ方などを大事にする
- 個々の子どもの違いやその子らしさ（個人差，個性）が発揮できる環境づくり
- 子どもが自らの理解を深めながら，自分のよさを伸ばしていくことを助ける支援

それは，学習の活動や範囲，領域などの弾力化，あるいは「判断，思考，表現，選択，意欲」そのものが目標とされる学習活動の設定などである。

II『自己表現力』を育てる手だて

１．その子らしい学び方ができる単元の設定

先ず，その学習自体，自分らしい過程を経て，必要な学習内容を自らが獲得していくものでなければならない。そのためには，

①自分自身の生活や社会で心動かされた，生活に生きていく学習問題を設定する。
②多様で幅広い，さまざまな学習活動があり，子ども自身がそれをを選択したり創意工夫できること。子どもの筋道に対応できる柔軟な学習計画とその時間や場を保障する。
③学習の場を多様化する。机の配置を工夫したり，各種コーナーや学習スペースを設ける。あるいは，校庭，多目的ホール，図書室，校外の諸施設などを利用できるようにする。
④個別やグループなど活動に応じた変化のある学習形態を組んで，個々の子どもの筋道や学び合う場が生かせるよう配慮する。
⑤必要な資料や教材，文具などを手近に置いて，子どもがいつでも活用できるように学習環境を整える。子ども自身が作成した資料なども互いに多用していく。

ことなどを大切な要素として構成した。

2．『自己表現の場』を重視した展開

①　実践・体験的な活動で，自己表現できる場を保障する

「表現力」は，実際の活動場面で体験を重ねることによって身についていく。また，他のモデルを参考にして，自分の表現を見直していく場合も多く見られる。そのために，以下の実践例でも述べるが，自分らしい表現力を高めることを目標とする学習活動の場を多く経験させることである。

②　子どもの表現を受けとめ，よさを見つける評価を

一人ひとりの表現をまるごと理解し，認めることで，子どもの次の表現が引き出され，自分をより，豊かに表現しようとする意欲が生まれてくる。友だちや教師の共感的な対応や支援が大切である。

③　自己評価力を育てる

授業後に観点を示したカードや感想を書かせる。しかし，これらは，その時間の子どもを知るためのものとなりがちで，子ども自身が自分の姿や行動，理解，感性などを振り返って，次へ生かそう（自己評価）ということは少ないように思われる。そこで，自己評価の目的や価値を理解させて，これらの活動は，よりよい自分にしていくためのものであり，自己を伸ばしていこうとする意識をもたせていくことが大切である。教師の言葉は，一人ひとりの変容や内面の育ちを捉えた，励ましや助言でありたい。

④　情報交換の場を設定する

情報交換の場では，自分の表現が相手に伝わり，承認され，賞賛を得るという相互によさを認め合う体験ができる。この満足感も，自信や次の表現への意欲となって，主体的な実践を促す。

そこで，一緒に学ぶ意義や楽しさを実感し，学習してきたことを他の人へ広げたり，コミュニケーション力・プレゼンテーション力を高めることを主眼に，次のような形態を試みた。

ア．展示内容を工夫し，説明したり，新たな情報を得る〔コンパニオン型〕
イ．ポスター，絵本，漫画，写真，紙芝居等を工夫する〔メディア型〕
ウ．必要に応じて情報を集め，資料をもとに討議する　〔ディベート型〕

尚，アは，子どもらのイメージに合わせて，この名称を用いた。

III実践例『わたしたちの地球』〔6年生35名　2月実施〕

1．学習にあたって

(1)　環境問題と子どもの生活

『わたしたちの地球』を守るために，子どもたちが，今，最も気になるのが自然破壊，環境破壊であった。その原因として人間のぜいたくさや便利さがあり，人が住みやすくすればする程，

破壊が進むことに気づいている子もいる。

しかし，実際の生活を見るとどうだろう。

調理実習のごみの処理，使い捨て商品，落とし物，電気の無駄使い，空き缶のポイ捨て・・・

そこには，何の問題意識もなく，恵まれた生活をしている姿がある。

大きすぎる単元名だが，家庭や社会を大きな視野で眺めさせ，自分の生活が，一つひとつ地球の環境につながっていることや環境破壊がこれ以上進めば，人類も全ての生き物も生存が危うくなるという認識をもたせたい。

環境問題は	オゾン層の破壊(5名)、 酸性雨（2名），森林破壊(2名) 水の汚れ、温暖化 大気汚染、騒音（各 1名）	破壊の原因	ぜいたくな生活(使い捨て むだづかい（5名) 自動車の増え過ぎ（排気ガス）(3名) フロンガス(3名)　埋め立て(2名) 住みやすくするという、 自分の都合で自然を壊している(1名)
環境を守る方法は	①森林…・木を無駄遣いしない(9名)・ゴルフ場をこれ以上造らない(2名) ・自然を増やす、木を植える(1名)　・森林破壊をやめる（1名） ②水 ……・水を大切にする　(2名)　・川、海にごみを捨てない　(2名) ・薬が入った水を工場から流さない　(1名) ③大気 …・オゾン層の破壊をくい止める(2名)　・排気ガスを減らす(2名) ・フロンガスに代わるものを(2名)　・地球の温暖化を防ぐ(1名) ④ごみ …・ごみを出さない、減らす(3名)・川や道にごみを捨てない(1名) ・ゲーム感覚でごみ拾い(1名)・無駄な物を買って捨てない(1名) ・資源を大切にし再利用や再生をする(4名) ⑤その他 …・動物や世界のつながりを大切にする　(2名) ・一人ひとりが守ろうとする心をもつ　(1名)		

（資料１）

といっても，「・・しよう」「・・はいけない」といった，安易な選択や感想で終わらせるのではなく，生きるためには必要な営みもあったこと。そこには，自分たちが生きるための葛藤や止むを得ない選択もあること。その中で，子どもたち自身がどう生きるかが問われ，また，問わなくてはならないことに気づかせていきたい。

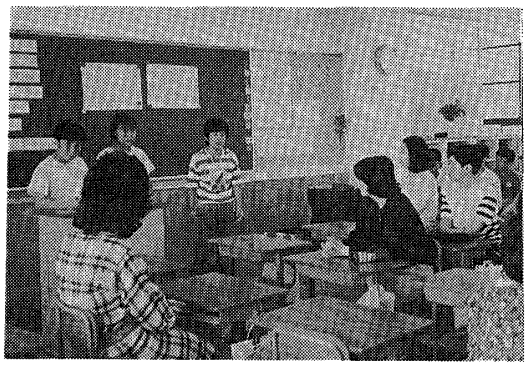
一般に「環境学習」というと，自然破壊や環境破壊の問題に絞られがちであるが，『環境とは，自分をとりまく全てのもの』として，自然や社会を自分とのかかわりで見ていく（認識）ことや人・自然・社会の相互のかかわり方を学び，自分の生き方について考えたり，よりよい環境のあり方について総合的に学習していくことを目標にしたい。

(2) 環境問題への関心

子どもたちは，これまでに，国語科で自然に関する説明文を読んだり，社会科やテレビなどによって，地球規模の環境破壊や問題についての知識をもっている。（資料１）

しかし，関心の強さや問題への逼迫感，環境と自分とのかかわりについての認識など，個々に違う。これは，家族や地域社会の意識の高さや各家庭のライフスタイルによる影響が大きく，実践の度合いやリサイクルなどの経験によるようだ。

中には，現実の生活を見つめて「生活が変わってしまうから」「分かっていてもできないから」と，環境を守る難しさについて聞きたいという子どももいた。



次に，学習の課題や筋道では，

①地域の実態を知りたい　②原因を調べたい

③破壊を止め，守る方法を考えたり調べたりしたい

④破壊をくい止められないわけや問題点を探りたい

などが多く，その活動は，資料の収集から，校外

へ向かうなどさまざまな面に広がった。（3　参照）

いずれにしても，ここで，未来に生きる子どもたちに“何ができるか”という，自覚と立ち向かう心を育てておくことが大切である。

2．単元の目標

大きく分けて「自己表現力」と「自ら働きかける力」の二つの学習目標を設定した。

(1)　先ず，環境問題の学習を通して，他の人に役立つ情報を知らせたり，互いに情報交換し合う態度と，豊かな表現力（プレゼンテーション力）を養いたい。

今回，学習したことを他の人へ広げることを主眼においた形態の内，子どもたちの希望によって，アの〔コンパニオン型〕を試みた。

他の人に知らせることを目的にすると，次のような活動や効果が期待できる。

◇活動の目的が明確になる　◇必要に応じて資料や情報を探し収集する

◇より分かりやすく，作成の方法を工夫する　◇聞いている人に分かるように，説明の仕方を考える　◇独創的なものを評価する

◇学習したことが自分自身のものとなり，積極的な生き方につながる　など。

(2)　次に，自分にできることから環境（社会）にかかわっていこうとする子，社会の動きや問題を自分の生活とかかわらせて，見直していく子を育てたい。

3．学習の流れ　（全１０時間〕

主に，環境を守ることが難しいわけや問題点を探る方向で展開する予定をしていたが，自分が立てた問題について，自分なりに取り組みたい子どもらの意向を生かして，以下の図のように取り組んだ。

1	2	3　4　5　6　7　8	9	10
わたしたちの地球の作文と意見交換	問題の設定とグループ作り	各自・各グループで 資料や情報の収集と展示資料の作成 ・ＶＴＲ　・本　・パンフレット ・調査〔和歌山市役所、県庁、河川、道路〕 ・図書館　・アンケート調査（家庭や学校） ・実験　etc.	わたしたちの地球展示発表会	後片付けとまとめ

※・展示会場となるメディアホールは，６教室分ほどの広さがある。

・展示発表の日は，他校の先生方や，３年生の児童に参加していただいた。

・この後，数日間，全校の児童にも展示を公開した。

4．学習活動「コンパニオンになろう」

(1) 目　標
- 自分らしい表現方法で，相手に応じた展示や説明ができる
- 他の人の展示や説明を自分の考えをもって見聞きすることができる
- 他の環境問題についても関心をもち，実行できるようになる

(2) 学習展開と活動の場　〔メディアホール〕

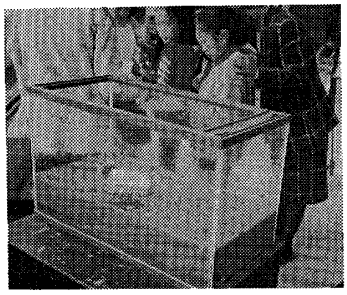
学習活動と活動の場（メディアホール）	留意点及び支援
①各グループで展示発表会の準備と打ち合わせを行う ②開始　◇参観者にわかるように説明する　◇質問や意見に対して真摯に考えを述べたり答えたりする ◇持ち場を互いに譲り合って他の会場を回る 8 川の汚れのひどさ 混じっている物質 ▽川の模型と写真 5 森林破壊の実態 森林の役割と守る方法 ▽ビデオ 3 水質汚染は解決できるか 河川の状況と汚水の原因 浄化の方法 2 森林のはたらき 森林破壊の原因 減らし方　▽本 6 ゴミの減らし方 リサイクルの方法 9 森林破壊の実態と その理由や影響 4 酸性雨の被害 オゾン層の破壊 と原因　▽実験 1 水を汚さない方法 ▽公害の種類 ▽家庭排水のアンケート 7 砂漠化を防ごう ▽　世界地図 森林減少の実態 資料コーナー 入口　入口 ③終了後の感想 ◇思うように説明できたか　◇質問に答えられなかったこと ◇新しくわかったこと　◇表現活動について　etc.	・アピール性のある看板や展示の工夫 ・掲示板の配置 ・具体物や資料提示 ・各展示会場を回りお互いのよさに気づかせる ☆具体的な内容は記録カード参照 ・グループで協力することは勿論だが、一人ひとり責任をもってあたらせる ・参観者の質問や意見が学習を深めたり高めたりすることに気づかせる ・「実行しよう」「これならできる」ということを見つけさせる ・発表の場を設ける ・各自ノートに記入

☆展示発表会記録カードとして，各会場を回る時に以下の項目について相互評価させた。
- 展示内容の工夫　・わかりやすさ　・話し方の工夫　・説明がわかりやすいか
- 主張が明確か　・態度　・質問への答え方　・役に立ったこと

これらの評価項目は，表現力の基礎基本を子どもらに自覚・意識させ，自分の表現力の見直しをさせると共に，その見方を育てて，他の表現のよさに気づかせるものである。

5．主な活動の様子と感想

8 川の汚れのひどさ



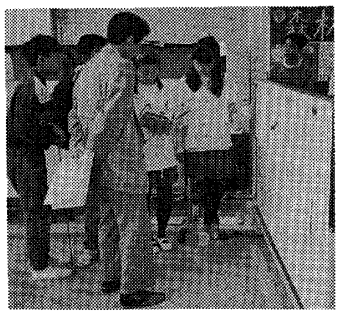
（川の模型を見て説明を聞く）

私のグループは、汚い川の水質検査をするため水をとりに行き、写真もとってきました。

川は、上から見ると、茶色っぽいきたない水に見えるけれど、すくってみると、いちおう透明です。でも、細かなごみがたくさん浮いています。川には、ビニル袋や空き缶が捨てられ、時にはダンボール箱までありました。油っぽい流れもあり、くさいにおいがしました。

私は、今までこんなことは、気にしていませんでした。調べてとてもびっくりしました。それで、みんなに今の状態を知らせるべきだと、汚れた川を作ってみました。きれいにする方法を聞いてみたいと思います。　　M女

3 水質汚染と浄化の方法



▽水質基準や汚水原因のグラフ
▽廃油からせっけんを作る方法をプリントして配る

◇参会者の感想から〔29名 回収〕

3年生：和歌川もどろどろで、あわ立っている。本当に自分たちがよごしてるのかと、うたがってしまうきたなさだ。私たちの力ではむりだけど、少しずつきれいにして大切にしていきたいです。	参会の先生：とても残念なことです。気持ちまで暗くなります。人の心をなごませてくれるような美しい川を増やしていきたいですね。

4 酸性雨の被害とオゾン層の破壊

▽実験　県衛生公害センターで試薬を借りる

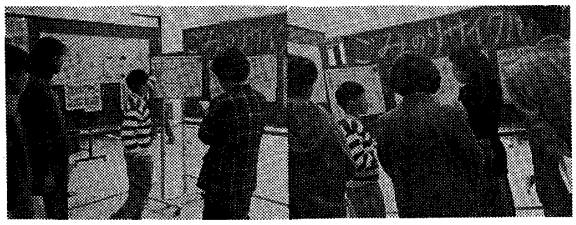
発表会に偶然、雨が降ってきたので、すぐにコップにとってきて、実験して見せました。すごくどきどきしていました。水が緑っぽくなり、これは酸性雨だと思った瞬間、なぜか、うれしい気持ちになりました。なんと今、和歌山でも酸性雨が降っているんだなと、初めてこの目で確かめられました。ぼくは、酸性雨のことを見直しできました。元になるS分は、工業から出ています。地球環境にかかわる植物の被害は、防いでいきたいです。　　S男

5 森林の役割と守る方法

▽ビデオ「熱帯雨林」

ビデオばかり見ている3年生は困りました。熱帯雨林に興味があるみたい。説明といっても、先生方と同じじゃきっとたいくつしでしまうと思って、クイズにして答えてもらいました。すると、たくさん手をあげてくれたり、楽しんでもらえてよかった。　　N女

6 ごみの減らし方とリサイクル



調べたことを説明する⇨参会者から質問を受ける

7 砂漠化を防ごう

▽　世界地図に森林が減少している場所やその面積を書き込む
▽　展示の工夫
　　大きな看板
▽　学校の廊下に案内ポスターをはる

◆資料コーナーを利用する子どもら

6．展示発表会〔コンパニオン〕の活動から

○ぼくは，コンパニオンなんかやるのは初めてで，うまくいくか心配でした。だんだんその小さな心配が大きくなって，緊張してきました。（M男）
○今日の授業は，とても楽しみにしていました。今回のテーマは「自己主張」だったので，大いに自信がありました。自分の考えを主張したくて，グループから独立するくらいだから完ぺきだと思っていました。（Y男）

大半は，初めての経験でもあり，不安と緊張の中で臨んだことが伺えた。下記のように楽しみだ，話してよかったという感想が活動後に聞かれればうれしいが。

子どもたちの反応から学習活動の意義を探ってみよう。

① 相手に応じた表現

「先生だと話しずらくて，石になってしまった。3年生が来た時，ほっとした（U男　9）」と，書いた子もいたが，「先生の方が，分かってもらいやすかった」という子の方がが多い。教師は，関心を持って，ある程度汲み取ってくれるからである。そこには，殊更の工夫はいらない。3年生に対しては，「聞いてもらうのに工夫がいる。ワーと来て，こっちを向いてくれず困った」というのが大方の本音だった。同じ内容でも相手による反応の違いから，聞いてもらうには工夫がいるという経験をしている。

② 自己有能感や自己効力感を味わう

◎最初，とっても心配でした。大きな声で言えなかったら，わからなくなったら!!
　先生が来た時，どうしよう，どうしようでいっぱいだったけど，説明していると，なぜかはきはき答えられてて，また，先生が来ると，どうしよう，どうしようと思って，また，なぜかはきはき答えている。少し，びっくりしました。（Y女　3）
○―前略―少しでも大勢の人達に見てもらって自然の大切さを知って，守るよう心がけてくれたらうれしいです。（T男）

「知らず知らずに，はきはき話している自分に気づいて驚いた」というような，自分のよさやかくれた力を見つけたり，みんなの役に立ってうれしいという実感は，次への意欲や自信につながる。このような機会や場を設けて，体験することの必要性を痛感する。

③ より深まる理解

「調べたことが身につくし，わかってもらえるように表現方法を考えることができてよかった。（H女）」と，人に話すことによって，自身の理解が深まったり，わかっていなかったことに気づいたり，より深く考えたりすることができる。また，このような状況では，聞こうという姿勢が生まれる。

○自分の意見を言ってみて，ためになったのは，先生たちに教えてもらうことが，山ほどあって，個人の考えも聞くことができて参考になりました。・・・（Y男　3）

④　共感的なかかわりや聞き方が話し手の力や態度を育てる

聞いてくれた喜びを書いている子どもが多かった。質問されたり，頷いてくれたりしてくれる方が話しやすかったと言う。また，参加者が少なくがっかりしたという声もあった。

○先生方は，私たちの説明をふんふんとうなずいて聞いてくれたり，ドキッとするような質問をしたりするので，おもしろかったです。3年生も並べて置いた本を読んだり，展示物をじっくり見て，「これなにぃー」と聞きに来たり，熱心に説明を聞いてくれたりしました。うれしかったです。（Y女　4）
○一番に来た先生が「何を教えてくれるのかな」と言いました。酸性雨のでき方とその被害，オゾン層の破壊の原因の二つを調べていますと，展示物を説明すると「よく調べたね。君は，言い方が上手で，自分の意見も言えてうまい」とほめてくれたのでとてもうれしかったです。（M男　4）

⑤　わかりやすい展示の仕方や他の班のよさに気づく

○展示した資料を読んでいるだけだったので，しにくかった。グラフをかいたり，字を少なくして見やすい工夫がいる。質問して下さる方が説明しやすかった。(S女　2)
○7班の質問への答え方がとてもていねいで先生も納得していたのでよかったです。7班の砂漠化の問題と情報交換すればよかったかなと思いました。3年生が聞いてくれないので，ビデオを見てクイズを出したり，プリントを配ったりしました。1回の時間計画をちゃんとしておくべきだったと思いました。（H女　5）

同じ学級の仲間に対して，一方的に説明したり発表したりしている授業では，このように表現の仕方を考えたりする必要感が起こりにくい。同じ目的で同じ内容を学習しているため，少々のことなら通じる。鋭い質問も少ないであろう。どうしてもわかってもらおうという気合や姿勢も弱くなる。

一方，聞いている側も，興味や関心の度合いが違うにも関わらず，皆が同じことを聞いたり，見たりするのは，時には，退屈だ。

この活動の場合，自分の思いをわかってもらうには，どうすればよいかという願いから話し方，展示の仕方，書き表し方，興味や関心の引きつけ方など，さまざまな表現がその子なりに駆使される。漢字や難しい語なども事前にしっかり調べておく準備も必要だ。

以上のように，実際に表現していく場を経験しながら，プレゼンテーション力やコミュニケーション力が培われていく。表現への反応がすぐに聞けるというのも，通常の授業との違いであり，自己の反省や成就感・満足感につながりやすいことがわかる。

7．授業構想の転換を（まとめ）

卒業時のＳ男の文（右）には，家庭科の学習活動が自分自身を築いていくように感じたと書かれている。実践例では，環境問題について理解し，実践化を図ることも学習の目的であったが，第一の目標は，先に述べた『自己表現力』を育てることにあった。

この他にも「食生活」単元では，参観授業でインタビュー，試食，発表等，母親に対するプレゼンテーション活動を行った。さまざまな表現活動ができる機会を積極的に活用していくことを心がけている。

○ディベート学習や展示会のコンパニオンなど・・自分の意見を相手に伝えることの大切さがあの時とは限らず，今よく身につきました。（Ｈ女）

家庭はぬい物，作る物としか五年生のときはなかったけど，ディベート学習，コンパニオンの学習で，家庭とはと一度思い返したときもありました。ディベートでは必死に資料を集め，授業のやり方についてもおそわりました。ぼくたちが地球に一番近くにふれるのに「地球の環境」には2，3こしか知らなく，今では地球の大切さが分かりました，テストをふくめ，数々の破かいにつき思い直しました，研究授業でもぼくたちが司会となり取り組んで自分で自分を築き初めるような感じがしました，家庭での不思議な探険ありがとうございます。

一般に，先ず，教科の内容や技能があって，それを理解させ，身につけさせるためにどうするかを中心に，目標を立て，手だてを考える。

しかし，これから，生きる力につながる学力を育て，高めるためには，・どのような教科を・領域を　・単元の構成を‥というような見方，考え方が大切になる。この教材で何が育てられるか，この教科は，子どもの学力を高めるためにどういう役割が果たせるかという，子どもの側からの見直しがあって，単元を組むことが必要なのである．

そこから，教科内容の精選，統合，新教科の設置なども合わせて考えていかねばならない。

※参考「メディアが開く新しい教育」水越敏行（著）　学研
「指導と評価」94年６月号　京都女子大教授　北尾倫彦「新しい学力観に立った授業」
「自己表現力」を育てる　和歌山大学教育学部附属小学校　研究企画案より　95年３月